

## 対話とアクションで 社会イノベーションのプロセスを確立する

庄司昌彦(しょうじ・まさひこ)

国際大学 GLOCOM 主任研究員／イノベーション行動科学プロジェクト副リーダー

### 社会イノベーション・フューチャーセンター

GLOCOMのイノベーション行動科学プロジェクトは、「社会イノベーション・フューチャーセンター」として活動してきた。これは、さまざまな組織を超えて集まった人々が、取り組むべき「社会課題」を見出している社会企業家とともにその課題に向き合い、さまざまな手法を通じて課題の本質の検討や再定義、解決策の試行などに取り組むことで、「社会」と「ビジネス」の双方へのインパクトを生み出していこうというものだ。

この活動を具体化するのが、「そらキッチン (SOcial LAB KITCHEN)」という常設の「場」に集う人々だ。そらキッチンの活動拠点はオフライン・オンライン双方にあり、オフラインでは二子玉川のコワーキングスペース「カタリストBA」と六本木のGLOCOMで、アイデアを磨き上げるイベント「そらキッチン・ナイト」や、定例のミーティングなどを行っている。オンラインではグループウェア、ブログ、ソーシャルメディア (Facebook) を活用し、情報の共有、発信、利害関係者のネットワークなどを行っている。ここには誰もが社会課題を持ち込み、協力しあって解決に向けた考察や実践をすることができる。

また、年度の後半には、8回構成のフューチャーセッション (うち2回は現地フィールドワーク) を5カ月かけて行い、全員参加で社会イノベーションに取り組むプログラム「ブラカデミアサロン」を開催した。参加者は二つのプロジェクトに分かれ、一つのチームは鳴子温泉をフィールドとし、新たな観光モデルによる東北地方のコ



コミュニティ活性化という課題に取り組んだ。もう一つのチームは浦安のフラワー通り商店街をフィールドとし、都市部で今後高齢化率が急上昇するという課題に取り組んだ。この二つのプロジェクトは8回のセッションを通じて社会イノベーションプランを提案したが、これはプランの提案にとどまるのではなく、今後、各自の本業や強みを活かしたアクションに結びつけることで、具体化に向けて進んでいく予定だ。

## オープンデータ活用アイデアソン・ハッカソン

社会イノベーションに取り組む切り口として今年度重視したのが「オープンデータ」の活用である。これは、政府機関などが保有している多種多様なデータを、コンピュータが扱いやすい形式にして公開したり、利用条件を緩和したりすることで、地域住民がデータを囲んで社会課題について話しあったり、エンジニアがアプリケーションを開発して社会活動やコミュニティビジネスの振興に役立てたりしていくことを促進するものだ。2012年7月に政府が「電子行政オープンデータ戦略」を出したことからオープンデータはIT政策として語られがちであるが、英国政府が「大きな社会」づくりの一環としてこの政策を打ち出しているように、これは幅広い分野の社会運営に関わるものだ。今後の情報社会・知識社会を運営していくために必要なインフラづくりともいえる。

2012年6月・7月には「オープンデータ活用 ～ハッカーと起こす社会イノベーション」と題し、アイデアソンとハッカソンを行った<sup>★1</sup>。多様な背景を持つ人々が参加して社会課題に関する対話（アイデアソン）を行うとともに、生まれたアイデアを具体化するITサービス開発（ハッカソン）までやっしまおうというものだ。

このイベントからは、たとえば、「Where Does My Money Go? (税金はどこへ行った?)」というサービスが生まれた<sup>★2</sup>。各自の世帯タイプ(单身/扶養あり)と年収を指定すると、その人が支払っている横浜市税の金額と、そこから健康福祉、街づくり、消防といった分野に使われている1日あたりの金額が算出されるという仕組みだ。行政関係者や地方議員、エンジニア、デザイナーなどが協力して英国で提供されているプログラムを翻訳し、横浜市が公開している一般会計予算のデータを活用して生み出した。

横浜市では2012年11月に官民の協力で「オープンデータソリューション発展委員会」が立ち上がり、文化・観光などをテーマに対話イベントやハッカソンなどを開催している。「Where Does My Money Go?」は、こうした場などで市民が対話

図1: Where Does My Money Go? (税金はどこへ行った?)トップページ



出所: <http://spending.jp/>

を深めていくためのツールとして使われていくことが期待される。

2013年1月・2月には、オープンデータを活用し高齢社会の課題にチャレンジする「高齢社会アイデアソン・ハッカソン」を、そらキッチン其主要メンバーである(株)スマートエイジングとともに開催した<sup>★3</sup>。

## プロセス科学と行動科学

対話とアクションをどのように組み合わせ、それぞれをどう充実させるか、社会イノベーションを起こしていくためには、さまざまな手法をどう組み立てていくかというプロセス科学と、それぞれの局面でどう行動すれば創造性が高まり効果的になるかという行動科学が必要である。今後もそうした研究を深めていきたい。

註

★1——アイデアソン・ハッカソンとは、「アイデア出し」と「ハック(開発)」をマラソンのように続け、最後までやりきる、ということから生まれた言葉である。

★2——<<http://spending.jp/>>

★3——その様子は、日経新聞社のサイトで紹介された。

「高齢化社会、オープンデータで豊かに アイデアソン実施」、オープンデータ情報ポータル、2013年1月19日<<http://opendata.nikkei.co.jp/article/201301192108817741/>>